

GDP失速、年率1.2%減

7～9月期 1年ぶりマイナス成長

内閣府が十五日発表した
二〇二二年七～九月期国内
総生産（GDP）、季節調整

値）速報値は、物価変動を
除く実質で前期比0・3%
減、このペースが一年続くと
仮定した年率換算は1・

2%減だった。事前の市場
予測に反し、二二年七～九
月期以来四・四半期（一
年）ぶりのマイナス成長と
なった。物価高の影響など
で個人消費が停滞したほ
か、輸入の伸びが輸出の伸
びを大きく上回りGDP全
体を押し下げた。資源高に
伴う海外への所得流出は年

換算で約十九兆七千億円と
過去最大に膨らんだ。●関
連⑨面、論説⑩面

新型コロナウイルス感染
再拡大や世界的なインフ
レ、それに伴う海外経済の
落ち込みが今後の懸念材料
で、厳しい経済情勢が続く
見通しだ。

七～九月期の内訳は、個
人消費が前期比0・3%増
だった。コロナ禍の行動制
限は解除されたものの流行
「第七波」が響き、伸びは
前期の1・2%増から鈍化
した。設備投資は1・5%
増加。輸出は1・9%増、
輸入は5・2%増だった。

個人消費や設備投資など
の「内需」が実質GDPの
増減にどれだけ影響したか
を示す寄与度は、プラス〇



・四捨と比較的堅調だった。一方、輸出から輸入を差し引いた「外需」の寄与度はマイナス〇・七だった。輸入はウェブ広告を含む広告関連サービスが海外への大口支払いに伴って急増したことが影響した。影響は一時的とみられる。

これらの結果、四～六月期に前期比年率4・6%増だった実質GDPは急減速した形となった。景気の実感に近いとされる名目GDPは前期比0・5%減、年率換算は2・0%減だった。

同時に発表した実質国内総所得（GDI）は約五百二十三兆九千億円となり、前期比年率で3・9%減少した。日本全体の購買力を示しており、資源高や円安に伴い、暮らし向きはGDPの見かけ以上に悪化している実態が浮かび上がる。